

表7 SPF猫群の検査及び処置

病 原 体	供試抗原 ¹⁾	検査時期及び検査頭数		検査方法 ²⁾	処 置
		時 期	頭 数		
オーエスキー病ウイルス		3か月毎	群当たり繁殖動物5頭又は10%のいずれが多い頭数	臨床症状	陽性群・同居群 ³⁾ 全殺
猫カリシウイルス		〃	〃	SN	抗体陽性群・同居群 全殺
猫ヘルペスウイルス 1型		〃	〃	SN	〃
猫免疫不全ウイルス		〃	〃	ELISA	〃
猫白血病ウイルス/猫肉腫ウイルス		〃	〃	金コロイド標識抗体加ト グラフイー	〃
猫伝染性腹膜炎ウイルス/猫腸内コロナウイルス		〃	〃	ELISA	〃
猫汎白血球減少症ウイルス		〃	〃	HI	〃
猫合胞体形成ウイルス		〃	〃	SN	〃
クラミドフィラ フェリス		〃	〃	CF	〃
牛痘ウイルス ⁴⁾					
狂犬病ウイルス ⁴⁾					

注 猫の健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡した猫については病理組織学的検査等を行う。

1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。

2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 HI：赤血球凝集抑制反応 ELISA：免疫酵素抗体法 SN：血清中和試験 CF：補体結合反応

3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。

4) 国内で発生がない(又は重要度が低い)ものについては、抗原、試験法及び処置については発生国が実施している方法を重視する。